

日本語の「名詞＋の＋名詞」は
韓国語でいかに現れるか

— 第3の類型について —

金 恩 愛

日本語の「名詞+の+名詞」は 韓国語でいかに現れるか

— 第3の類型について —

金 恩 愛

1. はじめに

1.1 本稿の目的

本稿の目的は、日本語の「名詞+の+名詞」で表わされるところのものが、韓国語でいかに現れるかをめぐって、既存の先行研究ではほとんど注目されてこなかった、〈第3の類型〉について表現様相論の立場から⁽¹⁾考察することにある。言語資料としては、日本語で書かれた小説とその韓国語の翻訳書を用いた。また、日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の種類の分布を示すため、計量調査をもあわせて行った。

1.2 問題提起：「名詞+の+名詞」をめぐる

日韓対照研究のあり方をめぐって

日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の種類として、ほとんどの先行研究⁽²⁾及び学習書⁽³⁾、辞書類⁽⁴⁾では、以下の2つの類型のみを提示している：⁽⁵⁾

「名詞+の+名詞」→「名詞+의 (lit. の)
+名詞」

「名詞+の+名詞」→「名詞+φ+名詞」

また、上記の2つの類型においても、以下の例のように、「の」の前後の名詞が韓国語で一致して現れることを前提に議論が進められる：

「恋[□]の[□]悲しみ」

→「사랑의 슬픔 (lit. 恋[□]の[□]悲しみ)」

「音楽[□]の[□]先生」

→「음악 선생님 (lit. 音楽[□]φ[□]先生)」

しかし、例えば、日本語を母語とする韓国語学習者が、〈日本語の「名詞+の+名詞」=韓国語の「名詞+의 (lit. の)」名詞/「名詞+φ+名詞」〉といった、先行研究で提示されているような情報しか持っていない場合、以下のような日本語を韓国語でどのように表現するのだろうか：

雨[□]の[□]日。ぼくは、昔[□]の[□]彼女から[□]唯一[□]の[□]プレゼント[□]の[□]消しゴム付き[□]の[□]黄色い鉛筆を、間に合わせ[□]の[□]メガネでじっと見ている。通りすがり[□]の[□]派手なピアス[□]の[□]女の子[□]の[□]幼さを帯びた顔が、前を歩いている白髪混じり[□]の[□]年配[□]の[□]男性[□]の[□]よぼよぼ[□]の[□]足取りが……残業帰り[□]の[□]彼女と[□]の[□]いつも[□]の[□]スパゲッティが、桜[□]の[□]季節、彼女と交わした約束[□]の[□]数々が、間に合わせ[□]の[□]メガネ[□]の[□]今[□]の[□]ぼくには、遠い昔[□]の[□]ただ[□]の[□]思い出…⁽⁶⁾

はたして、日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の表現は、「名詞+의 (lit. の)+名詞」もしくは「名詞+φ+名詞」の2つの類型しか存在しないのだろうか。もし既存の研究で指摘され

ている2つの類型以外に存在する類型があるとしたら、どのようなものがあるのだろうか。また、そういった第3の類型は、実際のテキストにおいてどれほど現れるのであろうか。これが本稿の問いである。

1.3 研究の方法

1.3.1 言語資料

計量調査に用いた言語資料は、以下の通りである：

日本語：小説の原テキスト（10冊）

韓国語：日本語資料の韓国語版翻訳テキスト（10冊）

日本語、韓国語とも、作家や翻訳者による個人差という要因を少しでも抑えるために、重複は避けた。全ての資料は、本稿末尾に示す。日本語の言語資料の選択にあたっては、노마 히데키 [野間秀樹] (2002) に倣った⁽⁷⁾。

1.3.2 研究対象

研究対象とする日本語の「名詞+の+名詞」は以下のようなものである：⁽⁸⁾

名詞+の+名詞：明日のパン

名詞+助詞+の+名詞：友だちとの約束

名詞+副助詞+の+名詞：紺からの結婚祝い、
昨日までの雨

1.3.3 計量調査

1.3.1の日本語の言語資料から、一つの作品あたり、作品の冒頭から100文ずつ、全1,000文を収集した。そのうち、本稿が研究対象とする日本語の「名詞+の+名詞」は、全616例現れた。計量調査では、日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の類型として表1の3つに大別した。

本稿では、類型の分類にあたって、既に先行研究で指摘されている第1の類型、第2の類型とは別に〈第3の類型〉を設定した。これにより日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の表現として既存の先行研究ではほとんど注目されてこなかった〈第3の類型〉が全体の中でどのぐらいの割合を示すかを明確に確認できよう。

2. 計量調査の結果

以下、計量調査の結果を見てみよう。

表2の計量結果をみると、日本語の「名詞+の+名詞」の全616例中、「名詞+の+名詞」が韓国語で「名詞+의 (lit. の)+名詞」で現れた例は、182例、29.5%、「名詞+ ϕ +名詞」で現れた

表1 日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の類型

名詞+の+名詞	第1の類型	第2の類型	第3の類型
	「名詞+의 (lit. の)+名詞」	「名詞+ ϕ +名詞」	第1と第2の類型以外

表2 日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の類型の分布

名詞+の+名詞	第1の類型	第2の類型	第3の類型
	「名詞+의 (lit. の)+名詞」	「名詞+ ϕ +名詞」	第1と第2の類型以外
	182例, 29.5%	215例, 34.9%	219例, 35.6%
	全616例, 100.0%		

例は、215例、34.9%である。

そして、本稿が対象とする〈第3の類型〉で現れたものは、219例、35.6%で最も高い割合を示していることが確認できよう。

3. 第3の類型について

ここでは、日本語の「名詞+の+名詞」が、韓国語で「名詞+의 (lit. の) +名詞」と「名詞+ ϕ +名詞」以外の、第3の類型で現れた例について考察する。ここではこうした第3の類型をもたらす日本語の構造には、どのようなタイプがあるのか、韓国語の現れ方に注目し、タイプ別に見てみよう。

3.1 日本語の「名詞+の+名詞」が韓国語で「名詞+用言+名詞」で現れる場合

例えば、日本語の「お庭の木」「田舎のおばあさん」「ガラスとコンクリートの高層ビル」といった表現が韓国語では「정원에 있는 나무 (lit. お庭にある木)」「시골에 계신 할머니 (lit. 田舎にいらっしゃるおばあさん)」「유리와 콘크리트로 된 고층빌딩 (lit. ガラスとコンクリートでできた高層ビル)」のように、〈用言〉を伴って現れる類型がこれである。この類型において注目すべきことは、韓国語でも日本語と同じ表現の構造をとって「お庭の木」「田舎のおばあさん」「ガラスとコンクリートの高層ビル」のように表現しても〈文法的に正しくない=非文〉ではないにも関わらず、韓国語の翻訳テキストでは日本語とは異なる表現構造が選択されているということである。同一の言語場において複数の可能な表現のうち、なぜある特定の表現がより好まれるのかという使用頻度の問題は、文法的に正しいか、正しくないのかを問う〈文法性〉を超え、表現の〈自然さ〉を

考える上で示唆するところが多いだろう。

3.1.1 「同僚のみどり」タイプ

このタイプについては、既に多くの先行研究で指摘されていることであるが、日本語の「名詞+の+名詞」における前後の名詞の関係が〈同格〉の意味を表す場合、韓国語で「名詞+이다 (lit. である)+名詞」で現れる：

〈友人 \square 의 시나리오ライター〉が上京してくるので、一緒に飲まないか、と〈同僚 \square のみどり〉に声をかけられたのは、～(篠田/9)

〈동료 \square 인 미どり〉가, 〈친구 \square 인 시나리오 작가〉가 도쿄로 오는데～(이정환/10)

(lit. 〈同僚 \square であるみどり〉が, 〈友人 \square であるシナリオ作家〉が東京に来るので～)

「友人+ \square 의+シナリオライター」, 「同僚+ \square 의+みどり」のように、「友人=シナリオライター」「同僚=みどり」のように同格の関係にある場合、韓国語では「友人+ \square である+シナリオライター」, 「同僚+ \square である+みどり」のように現れる。

3.1.2 〈田舎のおばあさん〉タイプ

林八龍(1995)、金恩愛(2003)の指摘のように、日本語の「名詞+の+名詞」における前後の名詞の関係が〈存在〉の意味を持つ場合、韓国語では「있다 (lit. ある/いる), 계시다 (いらっしゃる)」を用いた表現で現れやすい：

「おばあさんが死んだんだって。〈いなか \square のおばあさん〉」(湯本/8)

“할머니가 돌아가셨대. 〈시골에 계신 할머니〉.” (이선희/8)

(lit. いなかに \square いらっしゃるおばあさん)

上の例を見ていると、日本語の「いなかのおばあさん」が韓国語では「いなかにいらっしゃるおばあさん」のように「계시다 (lit.いらっしゃる)」という形で現れている。この場合、助詞「-에 (lit.に)」を伴って現れる。以下、類例を見てみよう：

「〈お庭[㉠]木〉はなんですか」と聞くと、～
(川上 /11)

“〈정원[㉡]에 있는 저 나무들〉은 무슨 나무인가요?” (서은혜 /11)

(lit. 〈お庭[㉡]にあるあの木たち〉は)

「丸くて角のとれてるのは、〈地層[㉢]小石〉の特徴だ。ぼんやりするな」(湯本 /7)

“둥글고 모가 나지 않은 것은 〈지층[㉣]에 있는 작은 돌〉의 특징이다. (이선희 /8)

(lit. 〈地層[㉣]にある小さな石〉)

3.1.3 〈アルバイトの人〉タイプ

Martin (1975), 影山太郎 (1989, 1993) は、「する」を伴って動詞化する、「散歩, 研究, 活動」などの漢語, 「立ち読み, 山登り, 買物」などの和語および「テスト, プリント」などの洋語を, 動名詞 (verbal noun) と呼んでいるが, こうした〈名詞 (動名詞の場合)+の+名詞〉は, 韓国語では「名詞+하다 (lit.する)+名詞」で現れやすい：

いつもなら, 〈アルバイト[㉤]女の子〉に頼んでしまう類の郵便物を, ～ (山田 /10)

보통 때 같으면, 〈아르바이트[㉥]하는 아이〉한테 부탁해 버릴 시시한 우편물을, ～ (이유정 /)

(lit. 〈アルバイト[㉥]する子〉)

例えば, 上記の〈アルバイト[㉤]女の子〉を, 韓国語では, 「아르바이트[㉦]아이 (lit. アルバイト[㉦]子)」に言い換えても文法的に間違いでもなければ, 不自然な文でもないのに, 韓国語では「아르바이트[㉧]하는 아이 (lit. アルバイト[㉧]する子)」という形が選択されるのである。韓国語表現の志向性の1つの特徴であろう。

3.1.4 〈コンクリートの高層ビル〉タイプ

これらは〈名詞+の+名詞〉が, 韓国語で「名詞+되다 (lit.なる)+名詞」で現れた例である：

眠たそうな灰緑色の隅田川の兩岸には, 〈ガラスとコンクリート[㉨]高層ビル〉が並んでる。
(石田 /7)

스미다 강 양쪽에는 〈유리와 콘크리트[㉩]로 된 고층빌딩〉이 늘어서 있다. (양역관 /8)

(lit. 〈ガラスとコンクリート[㉩]からなる高層ビル〉)

以下は, 韓国語の小説では「名詞+되다 (lit.なる)+名詞」で現れたが, 日本語の翻訳テキストでは「名詞+の+名詞」の形で現れた例である：

〈지은지 십오년[㉪]이 된 이 낡은 아파트〉로 이사를 오면서 남자는～ (하성란 /172)

(lit. 建てて十五年[㉪]になったこの古いアパート) 〈築十五年[㉫]의 이 낡은 맨션〉に引っ越してきたとき, 男は～ (山田佳子 /75-76)

日本語でも, 例えば, 「建てて十五年になった古いマンション」のように, 韓国語と同じ表現構造が可能なのに, なぜ日本語では「築十五年のこの古いマンション」という表現が選択されている

のかは、日本語内部における表現の志向性を考える上でも重要であろう。

3.2 日本語の「名詞1+の+名詞2」における「名詞1」が韓国語で用言で現れる場合

ここでは、日本語の「名詞1+の+名詞2」における「名詞1」が、韓国語で用言を用いて現れる類型を考察する。

第3の類型の中で最も多いのがこのタイプである。この類型における「名詞1」は、金恩愛(2003)における〈重名詞 (heavy noun)〉⁽⁹⁾あるいは重名詞句と概ね一致するが、重名詞はいろいろな場面で日本語と韓国語の表現様相の違いをもたらす主要な原因として働く。

3.2.1 〈茶色交じりの瞳〉タイプ

以下の例を見てみると、「茶色混じり」「血まみれ」といった単一の名詞が、韓国語では「갈색 섞인 눈동자 (lit. 茶色混ざった)」、「피가 줄줄 흐르는 (lit. 血がだらだらと流れる)」のように〈用言〉を伴った形で現れている：

〈**茶色混じり**〉の瞳〉の芯の部分が不安げに、
～ (辻 / 11)

〈갈색 섞인 눈동자〉 부분이 불안스러워지더니
～ (권남희 / 10)

(lit. 〈**茶色混ざった**〉瞳)

私は〈**血まみれ**〉の舌に焼きゴテを当てるシーンを想像すると、腕に烏肌が立った。(蛇 / 4)

〈피가 줄줄 흐르는 혀〉에 뜨거운 고데기를 갖다대는 장면은 상상만～ (뱀 / 6)

(lit. 〈**血がだらだらと流れる**〉舌)

以下は、韓国語の小説では「고무지우개가 달

린～ (lit. 消しゴムが付いた～)」のように用言の形で現れたところが、日本語の翻訳テキストでは「消しゴム付きの～」のように名詞の形で現れた例である：

그리고 언제나 그 책상 위에 놓여 있던 <고무지우개가 달린 아내의 노란색 연필>, ~ (은희경 / 24)

(lit. **消しゴムが付いた** 妻の黄色い鉛筆)

そしてその机の上にもいつも置かれていた <**消しゴム付き**〉の黄色い鉛筆>, ~ (水野健 / 101)

日本語でも韓国語と同じ表現構造をとって、例えば、「**消しゴムが付いた** 妻の黄色い鉛筆」のように動詞的な表現をとっても非文でもなければ不自然な文でもないのに、日本語では「**消しゴム付き**」の黄色い鉛筆」のように名詞的な表現を選択して現れている。同一の場面において可能な複数の表現のうち、どの表現がより好まれるかを見ることは、その言語の表現の志向性を語る際、重要な判断材料になりうるだろう。

3.2.2 〈残業帰りのスパゲッティ〉タイプ

例えば、「残業帰り」「いわくつき」のように日本語では単一の名詞の形で存在する単語が韓国語には存在しないため、韓国語では、「잔업을 끝내고 (lit. 残業を終えて)」「복잡한 사정 (lit. 複雑な事情)」のように、用言を含む形で現れる：

〈**残業帰り**〉のスパゲッティ〉が、その日は酒に変わる。(篠田 / 9)

〈잔업을 끝내고 먹는 스파게티〉가 술로 바뀌었다는～ (이정환 / 10-11)

(lit. 〈**残業を終えて** 食べるスパゲッティ〉)

葬儀の前に一悶着あったという、〈**いわくつき**の遺影〉だった。(小池 /6)

장례 전에 한바탕 소란이 벌어졌던 〈복잡한 사정이 있는 영정〉이었다. (오근영 /10)

(lit. 〈**複雑な事情**がある遺影〉)

上の例は、韓国語において日本語の名詞1が用言を含む形に変わった上に、名詞1と名詞2の関係を説明する「먹는 (lit. 食べる)」「있는 (lit. ある)」といった新たな用言を伴って現れている点で、3.2.1のタイプとは少し異なる表現様相を見せる。

3.2.3 〈読みかけの雑誌〉タイプ

また、「読みかけ」「洗いたて」のように、「-かけ」「-たて」のような接尾辞を伴って現れる日本語の「名詞(重名詞)+の+名詞」は、韓国語で「用言+名詞」の形で現れやすい:

ベットのの中の成生が、〈**読みかけ**の雑誌〉から顔を上げて尋ねた。(山田 /8)

침대 위의 나무오가, 〈읽고 있던 잡지〉에서 눈을 떴고~ (이유정 /10)

(lit. 〈**読んでいた**雑誌〉)

ベットの中や、〈洗いたての衣類の山の上〉に粗相をした。(江國 /12)

침대 위에, 〈갓 빨아 놓은 옷더미 위〉에~ (김난주 /12)

(lit. 〈先ほど洗っておいた衣類〉)

3.2.4 〈間に合わせのメガネ〉タイプ

以下は、「間に合わせ」という概念を含む単一の名詞が存在しないため、韓国語では、説明的な形で現れるタイプである:

目医者に作ってもらった〈**間に合わせ**のメガネ〉をかけている。(湯本 /11)

안과 의사가 〈새 안경을 만들 동안에 쓰라고 준 다른 안경〉을 끼고 있었다. (이선희 /11)

(lit. 〈**新しいめがねを作る間に使うようにくれたほか**〉のめがねを)

3.2.5 〈子どもの頃〉タイプ

以下は、日本語の「名詞1+の+名詞2」における「名詞1」が重名詞ではないのに、韓国語で用言の形で現れるタイプである:

〈**子供**のころ〉, 両親に連れられてあちこち旅行した。(冷静と R/25)

〈어릴 적〉 부모님을 따라 많은 곳을 여행했다. (냉정과 R/25)

(lit. 〈**幼かった**ころ〉)

〈**子供**のとき〉初めてプラネタリウムを見たときのあの丸い天井を思い出した。(新婚さん /13)

〈어린 시절〉 처음으로 보았던 플라네타륨의 둥근 천장을 떠올리게 했다. (신혼부부 /11)

(lit. 〈**幼かった**時節〉)

3.3 日本語の「名詞1+の+名詞2」における「名詞2」が韓国語で用言で現れる場合

以下は、日本語の「空の美しさ」「空気の清々しさ」のような「名詞+の+名詞(イ形容詞からの派生名詞)」が、韓国語では「아름다운 하늘 (lit. 美しい空)」「신선한 공기 (lit. 清々しい空気)」のように名詞2が用言に変わって語順の変化を伴って現れるタイプである:

しかし、晴れた日の〈空の**美しさ**〉, 〈空気

の「清々しさ」,そして「人々の純朴さ」は、東京とは比べものにならない、と自慢するともなく、雅也は語った。(篠田/12)

그러나 맑은 날의 <아름다운 하늘>, <신선한 공기>, 그리고 사람들의 <소박한 마음>은 도쿄와는 비교도~(이정환/15) (lit. <美しい空>) (lit. <清々しい空気>) (lit. <素朴な心>)

このタイプの特徴としては、被修飾語の日本語の名詞2が「イ形容詞からの派生名詞」の場合が多いという点である。以下、類似の例を見てみよう。

どこかにあの「脚の長さ」と、「胸の大きさ」と「ウエストの細さ」と「肌の美しさ」を売っていたら、~(挑む/40)

어디선가 저 <긴 다리> 와, <큰 가슴> 과 <가는 허리> 와 <고운 피부> 를 팔고 있다면~ (lit. <長い脚>) と (lit. <大きい胸>) と (lit. <細いウエスト>) と (lit. <美しい肌を>)

3.4 日本語の「名詞1+の+名詞2」における「名詞1」が韓国語で現れない場合

例えば、「自分の写真」「自分の指」のような日本語は、単語結合のレベルでは韓国語でも「나의 사진 (lit. 私の写真)」「나의 손가락 (lit. 私の指)」のように対応する形が存在する。しかし、実際の言語場においては、次のように日本語と韓国語の表現様相は異なる様子を見せる：

「何の記念写真にするんです」鳥飼が笑いながら聞き返すと、布美子は「最後の」と言い、遠慮がちに目をそむけた。「最後の写真をきちんと撮っておきませんと。私は <自分の写真>

を一枚も持っておりませんから」(小池/7)
마지막으로……마지막 사진을 제대로 하나 찍어 두어야겠어요. 그렇지 않으면 난 <φ φ 사진 한장> 갖고 있는 게 없을 테니까. (오근영/12) (lit. 私は <φ φ 写真> を一枚も持っているがないから)

弥生はため息をつき、目のまわりを軽くもんだ。「自分の指」がつめたく思えた。(江國/10)

야요이는 한숨을 쉬고, 눈가를 가볍게 문질렀다. <φ φ 손가락> 이 차갑게 느껴졌다. (김난주/11) (lit. <φ φ 指> が冷たく感じた)

上記の例を見てみると、日本語では「私は <自分の写真> を持っていない」「弥生は ~ <自分の指> をつめたく思えた」のように表現しているところを、韓国語では、「自分」のところを言語化せず、「난 사진을 갖고 있지 않다 (lit. 私は写真を持っていない)」「야요이는 손가락이 차갑게 느껴졌다 (lit. 弥生は指が冷たく感じた)」のように表現している。韓国語でも日本語と同じ表現を選択しても非文ではないのに、韓国語では日本語と異なる表現を選択している、こうした点は、「再帰代名詞」を巡る日本語と韓国語におけるの表現様相の違いを示唆する重要な端緒になりうるかも知れない。

3.5 日本語の「名詞1+の+名詞2」における「名詞2」が韓国語で現れない場合

以下は、日本語の「名詞1+の+名詞2(方)が」という構文における名詞2が韓国語では現れないタイプである：

何も言わないうちから、紗織に「うそでしょ」と言われた〈男の**方**〉は、当惑したように～(篠田/10)

여자들 사이에 아무런 반응이 없자, 구석에 앉아 있던 〈남자 ϕ **方**〉는 당혹스런～(이정환/13)
(lit. 〈男〉は)

「うちのハウスのりんどうの〈香りの**方**〉が似合うよ、きっと」(篠田/13)
“우리 하우스의 용담꽃 〈향기 ϕ **方**〉가 잘 어울릴 것 같습니다.”(이정환/16)
(lit. 〈香り〉가)

「猫より人間の〈生活の**方**〉が大事だろう」(江國/15)
“고양이보다 사람의 〈생활 ϕ **方**〉이 더 중요하잖아.”(김난주/15)
(lit. 〈生活〉가)

韓国語でも日本語のように名詞2の「方」を言語化し、表現しても非文ではないのに、韓国語では現れていない。以下は、韓国語の「名詞」が日本語では「名詞+の+方」という表現で現れた例である：

남자는 발소리를 죽여 〈현관〉으로 (lit. 〈玄関〉)에다가～(하성란/170)

男は足音を殺して〈玄関の**方**〉へ行き、のぞき穴に目を当てる。(山田佳子/74)

以下、類似の例を見てみよう：

バックミラーに映った運転手の眉毛が動いている。彼は時々、〈私たちの**様子**〉を窺ってい

るのだ。(辻/15)

백미리에 비친 운전사의 눈썹이 움직이고 있다. 그는 이따금 〈우리〉를 (lit. 〈私たち〉)을 보았다.(권남희/14)

사람들의 눈에 띄지 않기 위해 계단참 천장에 달린 전등은 일부러 켜지 않는다. 어둠 속에서도 〈계단〉은 (lit. 〈階段〉)은 익숙하다.(하성란/171)

暗闇であろうとこの〈階段の**こと**〉は全部身についている。(山田佳子/74-75)

육조는 터무니없이 작아 평균치의 키인 남자가 들어가 앉아도 물이 흘러넘쳐 겨우 〈엉덩이〉에서만 (lit. 〈尻〉)で 찰랑거릴 뿐이었다.(하성란/172)

辛うじて 〈尻の**あたり**〉で水面がゆらゆらする程度だった。(山田佳子/76)

例えば、「名詞1+の+名詞2(語彙的な意味が希薄な名詞)」において、被修飾語の名詞が「様子」「ほう」「あたり」のように、語彙的な意味が比較的希薄な場合、韓国語では名詞2が現れない傾向が強いことが分かる。

4. おわりに

本稿の計量調査では、日本語の「名詞+の+名詞」の全616例のうち、219例、35.6%が先行研究ではほとんど注目されてこなかった第3の類型で現れた。これは、先行研究で指摘されている類型「名詞+의 (lit. の)+名詞」の182例、29.5%、「名詞+ ϕ +名詞」の215例、34.9%を上回る数値である。対照研究のみならず、言語教育においてもこの点は看過できないものと言わねばなら

ない。日本語の「名詞+の+名詞」が韓国語で〈第3の類型〉で現れる主な要因としては、日本語における複合名詞や派生名詞のような〈重名詞〉ないしは〈重名詞句〉の発達を挙げることができよう。

本稿では、日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の表現として「可能な表現もしくは現れうる表現」ではなく、実際のテキストで「現れた表現」を研究対象とすることで、先行研究ではほとんど注目されてこなかった〈第3の類型〉の存在を明らかにした。予め2言語間に「対応する」要素を設定して対照研究を行うのではなく、実際にいかに現れたかを見る対照研究は、金恩愛(2003)をはじめとする、一連の〈表現様相〉の研究の一環として位置づけうるものである。

《注》

- (1) 金恩愛(2003)を参照。「表現様相」とは、あることがらを言語上でいかに表現するかという、表現のありかたの総体を指す。日本語と韓国語の対照研究における表現様相論の研究は、同一の言語場(言語が行われる場)が与えられた時、日本語ではどのような表現が選択され、韓国語ではどのような表現が選択されていくのかを考察する研究分野である。ここでは、現れうる、可能性としての表現ではなく、実際にテキスト上で現れた表現をその研究対象とする。
- (2) 崔丁龍(1978)、張丞瑚(1985)、金善姬(1993)、張殷榮(1997)などでも日本語の「名詞+の+名詞」に対応する韓国語の表現として研究対象としているのは、「名詞+의(lit.の)+名詞」のみである。
- (3) ほとんどの学習書では、日本語の「名詞+の+名詞」における「の」に対応する韓国語として「의(lit.の)」を提示しているが、野間秀樹(2000)、野間秀樹・村田寛・金珍娥(2007)では、ふつう日本語の「AのB」は韓国語で「AB」のように「の」が「 ϕ 」で現れると説明している。
- (4) 例えば、安田吉実・孫洛範(1973;1995)、林四郎他(1991)、時事英語社辞典編集室(1994)、最新日韓辞典編集委員会(1997)、조희철(1999)な

どの日韓辞典や、菅野裕臣他(1988)、安田吉実・孫洛範(1989)、油谷幸利他(1993)などの韓日辞典の記述がその例である。

- (5) 時事英語社辞典編集室(1994)の「雨の日 비오는 날(lit.雨降る日)」と最新日韓辞典編集委員会(1997)の「麻のハンカチ 삼베로 된 손수건(lit.麻のできたハンカチ)」の例のように、「의(lit.の), ϕ 」以外の形で現れる例文がごく一部載っているが、これについての説明はなされていない。
- (6) 発表者による作例であるが、複数の日本語母語話者の確認を得ている。
- (7) 野間秀樹(2002)を参考に、①東京生まれの作家による作品、②1990年以後の作品、③現代を背景にした作品、④テキストに東京以外の方言が著しく混在していない作品という、4つの原則に基づく。
- (8) 今回の調査では、「手のひら」「手の甲」「うわの空」のように1単語と認められる例は除外した。
- (9) 重名詞とは、複合名詞や派生名詞など、語彙的な意味が重層化され、意味的な比重が相対的に重い名詞を言う。例えば、「会社勤め」「忘れ物」「怖いもの見たさ」などがそのような例である。

主要参考文献

- 〈韓国語で書かれた文献〉
- 金仁炫(2004)‘韓・日兩語の助詞「の」と「의」について(pp.59-78)‘*韓・日語の対照研究と日本語教育* 서울:語文学社
- 노마 히데키 [野間秀樹](2002)“한국어 어휘와 문법의 상관구조” 서울:태학사
- 서울大學校語學研究所 黃燦鎬, 李季順, 張奭鎭, 李吉鹿(1988)“韓日語對照分析” 서울:明志出版社
- 安田吉実, 孫洛範(1973;1995)“엣센스日韓辞典” 서울:民衆書林
- 安田吉実, 孫洛範(1989)“엣센스韓日辞典” 서울:民衆書林
- 林四郎他(1991)“日本三省堂版 新日韓辞典(例解)” 서울:民衆書林
- 張丞瑚(1985)‘日本語助詞「の」とこれに対応する韓国語助詞「의」との対照比較’中央大學校教育大學院碩士學位論文
- 張殷榮(1997)‘現代日本語の格助詞「を・に・で・の」に関する研究—韓國人學習者の誤用分析を中心に—’*祥明大學校 教育大學院 碩士學位論文* 조희철(1999)“진명 뉴밀레니엄 일한사전” 서울:

진명출판사

崔丁龍 (1978) '日本語の「の」とそれに對應する韓国語の「의」との対応比較 — 韓日兩國の中學國語教科書を中心にして —' 韓國外國語大學 大學院 碩士學位論文

〈日本語で書かれた文献〉

林八龍 (1995) 「日本語と韓国語における表現構造の対照考察 — 日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として」『宮地裕・敦子先生古希記念論集 日本語の研究』東京：明治書院

影山太郎 (1989) 「形態論・語形成論」『講座日本語と日本語教育 第11巻 言語学要説(上)』東京：明治書院

影山太郎 (1993) 『文法と語形成』東京：ひつじ書房
菅野裕臣他 (1988) 『コスモス朝和辞典』東京：白水社

金順玉・阪堂千津子 (2004) 『チャレンジ! 韓国語』東京：白水社

金順玉・阪堂千津子 (2007) 『もっとチャレンジ! 韓国語』東京：白水社

金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』第188輯 天理：朝鮮学会

金恩愛 (2004) 「日本語の「する」は韓国語でいかに現れるか — 表現様相の対称構造と非対称構造 —」東京外国語大学大学院 修士論文

金恩愛 (2006) 「日本語の「—さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか — 翻訳テキストを用いた表現様相の研究 —」『日本語教育』129号 東京：日本語教育学会

金善姬 (1993) 「韓国語の属格助詞「ui」の意味機能 — 日本語の「の」との対照研究 —」『対照研究属格について』第三号 茨城県：筑波大学 つくば言語文化フォーラム

最新日韓辞典編集委員会 (1997) 『最新 日韓辞典 (日本版)』

時事英語社辞典編集室 (1994) 『アシスト日韓辞典』東京：三修社

野間秀樹 (2000) 『至福の朝鮮語』東京：朝日出版社

野間秀樹・村田寛・金珍娥 (2004) 『ぶち韓国語』東京：朝日出版社

野間秀樹・村田寛・金珍娥 (2007) 『Campus Korean — はばたけ! 韓国語』東京：朝日出版社

松澤明子 (2004) 「現代朝鮮語の助詞〈의〉が現れる環境について」東京外国語大学大学院 修士論文

油谷幸利・コ・ヨンジン (2005) 『実用韓国語』東京：

白帝社

油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』東京：白帝社

〈英語で書かれた文献〉

Hinds, John (1986; 1999) *Situation vs. Person Focus* 東京：くろしお出版

Martin, S. E. (1975) *A Reference Grammar of Japanese*. New Have: Yale University Press

Martin, S. E. (1992) *A Reference Grammar of Korean*. Tokyo: Charles E. Tuttle Company

●計量調査に用いた日本語の言語資料 (原書)

①石田衣良 (2003) 『4 TEEN』東京：新潮社 ②市川拓司 (2003) 『いま、会いにゆきます』東京：小学館 ③江國香織 (2003) 『号泣する準備はできていた』東京：新潮社 ④金原ひとみ (2000) 『蛇にピアス』東京：集英社 ⑤川上弘美 (2001) 『センセイの鞆』東京：平凡社 ⑥小池真理子 (1995) 『恋』東京：早川書房 ⑦篠田節子 (1999) 『女性たちのジハード1』東京：集英社 ⑧辻仁成 (2004) 『嫉妬の香り』東京：集英社文庫 ⑨山田詠美 (2003) 『A 2 Z』東京：講談社 ⑩湯本香樹実 (1994) 『夏の庭』東京：新潮文庫

●計量調査に用いた韓国語の言語資料 (翻訳書)

①이시다 이라 (2004) “포틴” 서울: 작가정신 번역자: 양억관 ②이치가와 다쿠지 (2005) “지금, 만나러 갑니다” 서울: 랜덤하우스중앙 번역자: 양윤옥 ③에쿠니 가오리 (2003) “울 준비는 되었다” 서울: 소담출판사 번역자: 김난주 ④가네하라 히토미 (2004) “뱀에게 피어싱” 서울: 문학동네 번역자: 정유리 ⑤가와카미 히로미 (2003) “선생님의 가방” 서울: 청어람미디어 번역자: 서은혜 ⑥고이케 마리코 (1996) “사랑” 서울: 소담출판사 번역자: 오근영 ⑦시노다 세츠코 (1999) “여자들의 지하드 1” 서울: 자유문학사 번역자: 이정환 ⑧쓰지 히토나리 (2000) “질투의 향기” 서울: 산성미디어 번역자: 권남희 ⑨야마다 에이미 (2002) “A 2 Z 야마다 에이미 소설” 서울: 태동출판사 번역자: 이유허 ⑩유모토 가즈미 (1996) “여름이 준 선물” 서울: 푸른숲 번역자: 이선희

●韓国語からの検討に用いた言語資料

三枝壽勝他 (2002) 「かびの花 (山田佳子訳)」『妻の箱 (水野健訳)』『現代韓国短編選 (上)』東京：岩波書店

은희경 (1998) ‘아내의 상자’ “1998년도 제 22 회 이상문학상 수상 작품집” 서울: 문학사상사

하성란 (1999) ‘곰팡이꽃’ “옆집여자” 서울: 창비